

# 複式続く学校から統合

## 若狭町・小中学校適正化計画

### 検討委町長に答申

若狭町内の小中学校の規模や配置の在り方について協議してきた町検討委員会は、適正化計画を取りまとめ15日、森下裕町長に答申した。教育環境の充実を最優先に、複式学級が継続する学校から段階的に統合を進めることを求めた。町教委は夏ごろから、統合の可能性のある学校区を対象に説明会を開き、意見を聴取する予定。(藤田有美)



若狭町の小中学校の規模配置の適正化について答申書を手渡す検討委の松田委員長(左から2人目) = 15日、同町役場

同町には10小学校と2中学校があり、児童生徒数はここ25年間で約4割減少。特に小学校は1校あたりの平均児童数が80人(1日現在)で県内最少となっている。現在、明倫と梅の里、熊川の3小学校

で複式学級が設置されている。検討委は昨年4月、福井大学院の松田通彦客員教授を委員長に町内小中学校長や有識者ら17人で構成。校長などへの聞き取りにより各小中学校の現況を把握したほか、町内の児童生徒や保護者、18歳以上の町民計2445人にアンケートを実施。児童数の少ない明倫や梅の里、熊川、野木小学校からは児童増を望む意見が多かったほか、子どもたちが学校生活で集団の中で表現力や判断力、問題解決力を育むことを望む声が多かったという。

適正化計画では小中学校の適正規模の「基準」を示し、小学校は1学年1学級以上、中学校は1学年3学級以上とした。この基準を踏まえ、複式学級があり将来的にも継続すると見込まれる小学校は「対応を急ぐべき学校」とする基本方針を示した。また、複式学級の設置が今

後見込まれる小学校や1学年2学級以下の状態が続く中学校は「引き続き検討すべき学校」とした。今後、町教委が計画を基に統合の対象となる学校の児童生徒数の将来見通しを分析したり、説明会で住民の意見を聴取したりする。

松田委員長は町役場で適正化計画を答申。学校統合はデリケートな問題であるとする一方で「子どもたちの教育環境を整えることを最優先に考え、町には答申の実現に向けて速やかな対応を期待したい」と述べた。答申を受け、森下町長は「将来を担う大切な子どもたちの教育環境を充実させる必要がある。町民と十分に協議を重ね、前向きな形で進めていきたい」と述べた。